

授業評価 2014 (後期) T1Q: 工学部機械工学科

syll mkjhytex.pl Ver 2.76(2015-04-17) by Yas

2014 年度後期 工学部機械工学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1Q009001	プログラミング	1 年後期水曜 5 限	森吉 泰生	T1Q 1
T1Q019001	解析力学	2 年後期火曜 2 限	坪田 健一	T1Q 2
T1Q022001	流体力学 I	2 年後期月曜 3 限	三神 史彦	T1Q 3
T1Q026001	工業数学 II	2 年後期月曜 2 限	渡辺 知規	T1Q 4
T1Q030001	機械工学実験	3 年通期木曜 3,4,5 限	各教員	T1Q 5
T1Q039001	機械設計製図	3 年後期水曜 4,5 限	森田 昇他	T1Q 6
T1Q039003	機械設計製図	3 年後期金曜 4,5 限	比田井 洋史他	T1Q 7
T1Q056001	エンジニアリングデザイン	3 年後期月曜 4,5 限	各教員	T1Q 8

授業科目名	: プログラミング
担当教員	: 森吉 泰生
年次・開講時限	: 1 年後期水曜 5 限
授業コード	: T1Q009001
授業アンケート	: 回答者数 72 人 / 受講者数 99 人 (回収率 73%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 70 件)

約 8 割が適切と回答している。易しすぎず、文法だけでなく豊富な例題、工学系で役立つプログラミングの考え方や例が出ているのがよいと考える。

Q10. 授業では宿題、レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 72 件)

7 割以上が役立ったと回答している。演習問題を宿題にしているのが効果的であったことがわかる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

講義担当者の経験を基に、陥りやすい間違いの説明、ハードウェアの進化と合わせた解説を行うことで興味を持ってもらったと考えている。興味を持って講義を聴くようにしてほしい。

3. その他のコメントや連絡事項

できる人とできない人の差が大きいのがこの科目の特徴で、初歩でつまづかないように頑張してほしい。

作成(者): 森吉泰生

授業科目名	: 解析力学
担当教員	: 坪田 健一
年次・開講時限	: 2 年後期火曜 2 限
授業コード	: T1Q019001
授業アンケート	: 回答者数 84 人 / 受講者数 107 人 (回収率 79%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 13 件)

1) 演習問題の略解について: 本講義では, 略解の配布や説明をする代わりに, 講義内容に即した演習問題の選択と, 問題に関する幾つかのヒントを出すこととしています. これによって, 略解を解くために自ら講義内容を深く考えて活用する力を養うことを狙いとしています. 実際に期末試験の結果を見ると, 受講生の皆さんは, 演習課題の内容を大凡正しく理解して問題を解いている様子が見て取れます. 一方で, 完全な解答が必要な受講者もいるようですので, 改善策を検討したいと思います.

2) 30%ほどの方は声が小さいとのことですので, マイクを使用することに致します.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

アンケート結果から, 60%~80%ほどの受講生が, 本講義の内容, 進度, 理解度などに概ね満足しているようです. この点については, 講義担当教員としてひとまず安堵しておりますが, この数字が大きくなるように, 教員側も引き続き努力をしていきます. また, 力学関係の科目は自学自習が重要ですので, 受講生の皆さんには, 自らじっくり考えて問題を解く時間を日常的に設けていただきたいと思います.

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 坪田健一

授業科目名	: 流体力学 I
担当教員	: 三神 史彦
年次・開講時限	: 2 年後期月曜 3 限
授業コード	: T1Q022001
授業アンケート	: 回答者数 78 人 / 受講者数 110 人 (回収率 71%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 75 件)

昨年度のアンケート結果では、「はい」「ややそういえる」と回答したものが全体の 82.9% だったのに対し、今年度は 88% に増加した。昨年度の授業評価アンケート結果の分析で、学生の要求の変化への対応が必要であると感じたため、今年度は、(1) 従来よりもさらに噛み砕いて説明する、(2) 微積分やベクトル解析について基礎事項を確認しながら進める、(3) 質点や剛体の力学についても基礎事項を確認しながら進める、の 3 点に重点をおいて授業を行った。この試みの結果と考えられる。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 76 件)

昨年度のアンケート結果では、「はい」「ややそういえる」と回答したものが 83.4% だったのに対し、今年度は 93.4% に大幅に増加した。上で述べたような改善によるものと考えられる。

Q29. この授業で良かった点について記入してください。(回答 17 件)

例年になく、たくさんの書き込みがあった。式の導出やスライドが丁寧、解説も分かりやすかった、実際の画像などでイメージがつかみやすかった、数学的知識も基本から復習できたのでとても満足している、など、今回重点を置いたことに対して好意的な意見が多かった。また、これからの学習への興味をととてもよく引き出すような内容だった、教科書よりも大分踏み込んだ内容で興味深いと思いました、のような意見からは、やや高度な題材に対しても、意欲的に取り組んだ様子が伺えた。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

この授業と並行して開講されている演習で、応用力をさらに養っていただきたい。

3. その他のコメントや連絡事項

スライドを事前に印刷したいという要望が複数あった。月曜 2 限までに Moodle にアップロードしているので、必要な人は、昼休みを利用して 3 限の授業までに印刷してほしい。

作成(者): 三神 史彦

授業科目名 : 工業数学 II

担当教員 : 渡辺 知規

年次・開講時限: 2 年後期月曜 2 限

授業コード : T1Q026001

授業アンケート: 回答者数 65 人 / 受講者数 85 人 (回収率 76%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 61 件)

もっとも高い値だった。マイクを使い大きな声ではっきりと喋ることを意識した。毎回、講義後はのどがかれた。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

おおむね満足してくれているようでよかった。

3. その他のコメントや連絡事項

今後も、工学における数学の重要性を意識してほしいと思う。

作成(者): 渡辺知規

授業科目名	: 機械工学実験
担当教員	: 各教員
年次・開講時限	: 3年通期木曜 3,4,5 限
授業コード	: T1Q030001
授業アンケート	: 回答者数 40 人 / 受講者数 75 人 (回収率 53%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q18. あなたはこの演習・実験・実習科目を受講することによって、対応する講義の理解が深まりましたか？ (回答 35 件)

本科目の趣旨は「座学で学習した内容を実際に体験して理解を深める」という点にあり、この設問で 4.80 という高い評価が得られたことから、十分な教育的効果があったものと考えます。また、Q16 において本科目の満足度が高い評価値 (4.78) を示しており、上記の意図が受講生にも理解されたのではないかと感じています。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

90%近い学生がレポート作成に 4 時間以上の時間を費やしたと回答しており、実験データの取りまとめや考察、論理的な記述に苦勞されたのだと思います。試験期間中のレポート作成や、製図や実習科目との重なりなど、3 年次が特に大変な学年であることは十分に理解していますが、機械技術者として必須の内容を集中的に学習できる時期と前向きにとらえて乗り切ってもらいたいと思います。

作成(者): 松坂壮太

授業科目名	: 機械設計製図
担当教員	: 森田 昇, 松坂 壮太
年次・開講時限	: 3 年後期水曜 4,5 限
授業コード	: T1Q039001
授業アンケート	: 回答者数 19 人 / 受講者数 36 人 (回収率 53%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 3 件)

同じ学費を払っている他の大学では高価な 3 次元 CAD を用いているのに、千葉大学では安価な 2 次元 CAD しか利用できず残念、とのコメントがあった。製図においては 2 次元ができれば 3 次元への展開は容易である。逆に 3 次元から習得すると 2 次元図面が理解できないことがあるため、まず、2 次元での製図が不可欠である。このことを来年度は説明したいと思う。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

レポートを提出しさえすれば単位がもらえると、勘違いしているようなレポートが散見される。当然、提出するだけでは不十分で一定の完成度が単位取得に必要である。

作成(者): 比田井洋史

授業科目名	: 機械設計製図
担当教員	: 比田井 洋史, 大森 達夫
年次・開講時限	: 3 年後期金曜 4,5 限
授業コード	: T1Q039003
授業アンケート	: 回答者数 18 人 / 受講者数 37 人 (回収率 49%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 3 件)

同じ学費を払っている他の大学では高価な 3 次元 CAD を用いているのに、千葉大学では安価な 2 次元 CAD しか利用できず残念、とのコメントがあった。製図においては 2 次元ができれば 3 次元への展開は容易である。逆に 3 次元から習得すると 2 次元図面が理解できないことがあるため、まず、2 次元での製図が不可欠である。このことを来年度は説明したいと思う。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

レポートを提出しさえすれば単位がもらえると、勘違いしているようなレポートが散見される。当然、提出するだけでは不十分で一定の完成度が単位取得に必要である。

作成(者): 比田井洋史

授業科目名	: エンジニアリングデザイン (旧名称「デザイン工学」)
担当教員	: 各教員
年次・開講時限	: 3 年後期月曜 4,5 限
授業コード	: T1Q056001
授業アンケート	: 回答者数 52 人 / 受講者数 91 人 (回収率 57%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q23. 班の構成メンバーで実験を適切に分担できていましたか? (回答 31 件)

日頃から仲の良い友達でチームを組むと効率が良いが、社会に出てからはいろいろな人と仕事をする機会の方が多い。

期せずして日頃馴染みのない学生がチームのメンバーとなったとしても、前向きに捕らえと、今後に生かせることができる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本授業 (セミナー) は教員が個別に実施しているので、若干のバラツキはあるものの、学生の主体性を重んじて実施されている。

考えるプロセス、チームとしてまとめる力、得られた成果を効果的にプレゼンする能力を養い、または向上させられれば、一定の成果が得られる。

3. その他のコメントや連絡事項

3 年前期までの受け身となる授業 (在学) ではなく、学生自らが考え、行動しなければならない。

この種の授業に慣れない学生も見られるが、4 年次の卒業研究や、技術者として社会に飛び立つ準備としては役立つものと考えられる。

作成 (者): 小林謙一